

発行者：食育のふるさとさかだにをよくする会

発行日：令和4年6月1日

さかだに瓦版（かわらばん）

～阪谷地区の今～

第3号【簡易版】



最近、時代の流れにより地域でいろいろな問題が発生してきて、
このままでは住み続けていくことができないという声を耳にするようになってきました。

瓦版の第1号では、阪谷地区の少子高齢化の現状とそれに伴って起こっているいろいろな問題、第2号では、地域の働く場や農業・観光業の実情についてわかったよ。



今回も、みなさんが知っているようで知らない阪谷地区の今を、いろんなデータをもとにみていきましょう。

【第3号の内容】

第3章 阪谷地区の生活環境

- 阪谷地区の生活環境、災害と防災
- 阪谷地区の公共交通
- 阪谷地区の移住定住の実情

過去のさかだに瓦版をまだ見てない人は、
右のQRコードから
ぜひ一度見てみてね!!



詳細版はもっと詳しくデータ等が記載されています。希望される方は阪谷公民館でお配りします!!

第3章 阪谷地区の生活環境

～ 阪谷地区の生活環境、災害と防災 ～

降水量 [観測地点：大野市春日] (気象庁HPより)

年	平均年間降水量 (mm)	平均日最大降水量 (mm)	平均1時間最大降水量 (mm)
1980年代	2,625.9	100.2	26.9
1990年代	2,238.1	84.5	28.2
2000年代	2,231.5	102.7	34.7
2010年代	2,412.7	113.1	34.9

降雪量 [観測地点：大野市春日] (気象庁HPより)

年	平均年間降雪深 (cm)	平均日合計の最大降雪深 (cm)
1980年代	601.8	44.1
1990年代	458.0	40.2
2000年代	473.3	41.6
2010年代	485.9	41.2

阪谷地区の災害 (風水害) 予想の特徴 (大野市総合防災マップ (ハザードマップ) より)

- 阪谷地区では、市街地と比較して「河川からの洪水浸水想定区域」は少ないです。
- 山際を中心に「土砂災害特別警戒区域及び警戒区域」とされる区域に民家がある地域があります。

(次の区の一部：柿ヶ嶋区、不動堂区、橋爪区、金山区、小黒見区)

※詳しくは市HP上に防災マップが掲載されています。

右のQRコードからご確認ください。



県・市の主な除雪体制 (市建設整備課データより)

【出勤基準：積雪深が10cmを超え、さらに降雪が予想される場合】 ※大野市雪害対策計画より

【国道・県道・県有施設】→ 奥越土木事務所が実施

【市道・市有施設 (学校等)】→ 大野市が実施 (令和3年度は13の事業者が除雪実施)

※令和3年度の阪谷地区の市除雪出勤回数：25回 (※令和2年度は16回)



阪谷地区は風水害での河川浸水による災害の危険性は低いけど、その分山際では土砂崩れの危険性があるところが何か所かあるよ。

防災に関しては市全体でもいろいろな取り組みをしているし、災害時には、避難所として、「阪谷小学校」や「阪谷公民館」が指定されているよ。

だけど、災害は突然やってくるから、私たちもハザードマップを見ながら、日頃の備えと早めの避難を心がけ、お隣やご近所とも声を掛け合って取り組む必要があるね。

雪については、道路の整備や除雪体制は昔より確立されてきているから、その面では昔より暮らしやすくなっているのかな。

でも、高齢者だけの世帯が増加している中、それぞれの家での雪かきや雪下ろしは厳しくなっている状況があり、市では「高齢者等雪下ろし支援」や「地域ぐるみ雪下ろし支援」を行っているよ。

でも、これも地域ぐるみでの助け合いがあってこそこの話だから、地域自体の高齢化が進むと厳しくなるね。

～ 阪谷地区の公共交通 ～



JR越美北線

※全線区間：越前花堂～九頭竜湖

越美北線の乗車人員（年計）の推移（市交通住宅まちづくり課データより）

（単位：人）

	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年
全線合計	474,855	465,018	460,509	456,554	376,247	346,675	344,743	325,856	321,759	302,884	321,850	336,759
市内駅合計	254,360	243,603	229,111	220,159	174,813	163,142	157,856	135,381	126,481	118,737	129,213	135,123
柿ヶ島駅	7,381	5,169	4,189	3,372	1,012	527	561	1,362	587	923	1,180	1,100
	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
全線合計	338,164	355,161	348,253	344,631	347,512	336,378	336,578	337,369	339,640	340,485	336,307	243,773
市内駅合計	140,296	154,813	148,976	142,553	140,165	129,529	126,551	115,465	100,999	102,827	105,924	69,153
柿ヶ島駅	694	1,077	469	419	130	18	26	11	35	31	14	10

越美北線の経営状況（2018-2020平均）（JR西日本開示データより）

線名	区間	営業キロ	2018-2020係数 収支率 (A) / (B)	2018-2020収支（億円）			平均通過人員（人／日）		
				線区運輸収入 (A)	線区営業費用 (B)	線区営業損失 (A) - (B)	1987年	2020年	2020/ 1987比
越美北線	越前花堂～ 九頭竜湖駅	52.5	6.8%	0.6	8.6	▲8.1	772	260	34%

乗合タクシー

乗合タクシーの運行状況（市交通住宅まちづくり課データより）



（単位：人）

【利用者数】

乗合タクシー路線	主な利用者	試験運行			本格運行 ※試験運行時より便数を削減									
		H21年度 ※10月～	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
森目・阪谷線	高齢者	1,240	2,978	3,471	3,711	3,521	3,099	3,008	3,003	2,142	2,197	1,488	1,115	1,459
大矢戸・乾側線	高齢者	248	474	305	270	456	695	329	275	318	310	375	368	228
友兼・藤生線	高齢者	750	1,349	1,248	1,372	1,183	998	897	1,051	1,211	1,140	1,244	822	666
小山・木本堀兼線	高齢者	1,131	2,037	1,773	1,955	1,726	2,233	1,755	1,337	1,025	1,133	1,051	719	658
小山・木本堀兼線 定時便	・上庄小児童 (1～2年) ・高齢者	1,922	1,044	816	1,445	800	1,289	2,052	2,029	1,393	1,398	599	845	1,396
計		5,291	7,882	7,613	8,753	7,686	8,314	8,041	7,695	6,089	6,178	4,757	3,869	4,407

【運行経費】

（単位：万円）

乗合タクシー全体	試験運行			本格運行 ※試験運行時より便数を削減									
	H21年度 ※10月～	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
うち数 森目・阪谷線	487	871	651	685	689	709	711	715	735	575	716	734	739

乗合タクシー 森目・阪谷線 時刻表

乗合タクシーの利用方法(利用方法)

乗合タクシーの料金表

乗合タクシーの乗車方法

乗合タクシー 森目・阪谷線 停留所位置図

乗合タクシーに関するお尋ね情報

※詳しい利用方法、料金などは市HPにて!! (下QRコードから)





越美北線は近年、利用状況や経営状況がよくないけど、市民にとっては欠かすことのできない重要な移動手段であり、また、観光の面でも重要な公共交通だよ。

越美北線を将来にわたって存続していくためには、みんなで越美北線に乗って、利用していくことが大切だね。

市では、利用促進として、利用者への助成金なども実施しているよ。乗合タクシーは昔と比べたら利用者数は減っているけど、「森目・阪谷線」はほかの路線と比べて利用者数が多く、それだけ地域として必要としている人がいるってことだね。

公共交通はどうしても自家用車等に比べれば、個人の「思い通り」に運行できないという不便な面はあるけれど、その分、行政が費用負担をしていることもあり、比較的安価に利用できるという良い点もあるよ。

将来的には自動運転などの技術発展によって便利な公共交通が出てくる可能性はあるけど、まだ実用的段階までいたっていないから、現状では、今ある公共交通をうまく利用していくことが重要だね。

今後、高齢化社会の中、公共交通はより重要になっていくと考えられることから、どうしたら使いやすいものになるか、また、地域で助け合えることはないかなど、みんなで考えていく必要があるね。

～ 阪谷地区の移住定住の実情 ～

市が支援をした移住者数（市地域文化課データより）

	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	
相談件数（単位：件）	35	55	47	37	42	81	54	82	109	117	102	67	115	134	
移住者数	世帯数（単位：世帯）	0	6	4	5	6	8	5	19	13	22	7	3	13	17
	人数（単位：人）	0	18	15	11	14	14	6	24	14	43	23	7	19	33
うち阪谷への移住者数（単位：人）	—	—	—	—	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	



まだまだ、移住者の数は多くないけど、相談件数をみても、市外の方で大野への移住定住に興味を持っている方は増えてきているようだね。

阪谷地区に住む魅力をアピールして移り住んできてもらうようにするのは、人口減少や空き家の問題の対策の一つと考えられるよ。

市でも、魅力発信や移住相談、空き家バンクなどのマッチングや各種費用支援などいろいろなことを行っているけど、地域としても、そういった移住希望者の方を受け入れる体制等を整えていく必要があるね。